

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【八王子中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	ICTを活用した生徒主体の授業を行い、個別の達成度に合わせた学習への取組を通して、基礎基本となる事項のさらなる定着を図る。
思考・判断・表現	ICTの活用と、さいたま市アクティブラーニング型授業により、主体的・協働的に学ぶ授業づくりのさらなる推進を図る。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 個に応じた学習活動を充実させ、基礎事項の定着をはかる。 <指導上の課題> 個別の達成度に合わせた学習への取組を通して基礎基本となる事項のさらなる定着	⇒ 漢字や言葉の使い方に関する事項、基本的な計算の反復・習熟を行うとともに、生徒の学習履歴を確認する。【毎時間設定】 定期試験前の「八中タイム」の時間等を活用し、重点的に復習を行う。【年5回実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 昨年度、国語と社会で無答率が高い設問があった。無答率を下げるよう学習の定着をはかる。 <指導上の課題> ICTの活用とさいたま市「アクティブラーニング」型授業による主体的・協働的に学ぶ授業の推進	⇒ ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を中心とした授業実践に取り組む。【毎時間実施】 学校図書館と連携した読書活動の充実により、読解力の向上を図る。【毎日実施】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	・毎時間、国語と数学で全学年で漢字や言葉の使い方に関する事項、基本的な計算の反復・習熟を行った。 ・ICTを活用して生徒の学習履歴を確認した。 ・年5回、定期試験前の「八中タイム」の時間等を活用し、重点的に復習を行うとともに、定期試験前に全学年で放課後の質問教室を実施した。3学年は2学期から週2回、放課後の学習会を実施した。
思考・判断・表現	A	・ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を中心とした授業実践に毎時間取り組んだ。 ・学校図書館と連携した読書活動の充実により、読解力の向上を図った。学校図書館の生徒のひと月の平均貸出冊数は、蔵書点検の月を入れても1.3冊となり、昨年度から大幅に上昇した。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語において、「具象と抽象など情報と情報との関係について理解している」、「文脈に即して漢字を正しく書くことができる」は全国平均より高かった。一方、「行書の特徴の理解」、「表現の技法について理解している」に関しては課題があり、以後重点的に取り組む必要がある。 数学において、「等式を目的に応じて変形することができる」、「確率」は全国平均より大幅に高かった。一方、事象を各の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができる」は今後の学習課題である。
思考・判断・表現	国語において、「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる」、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる」は全国平均より高かった。一方、「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝えるように話すことができる」と「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる」の結果を受け、読解力のさらなる向上が必要だととらえている。 数学において、「複数の集団のデータ分析」は全国平均より大幅に高かった。一方、「統一的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明できる」は誤答が多く、論理的思考能力の育成が課題である。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	中1では、社会の「歴史との対話」、中2では国語の「言語の特徴」「言語文化」について理解しているが、中1理科の「『生命』を柱とする領域」や中2数学の「関数」に関しては課題があり、以後重点的に取り組む必要がある。
思考・判断・表現	中2理科の「粒子」「生命」は、全般的に基本事項が定着している様子が伺えた。中1の国語の「書くこと」「話すこと」、中2数学の「データの活用」は誤答が多かった。どの教科も知識を問う問題を得意とする傾向があるため、思考力・表現力のさらなる向上が必要である。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	漢字は着実に定着している。言葉の使い方に関する事項、基本的な計算の反復・習熟を行い、生徒の学習履歴を確認する。定期試験前の「八中タイム」の時間等を活用し、重点的に復習を行っている。	変更なし
思考・判断・表現	B	ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を中心とした授業実践を行っている。学校図書館と連携した読書活動の充実を図っている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)